vinetur

カタルーニャ州、ブドウの買い取り価格が生産コストを下回る可能性のある契約100件超を調査

一部ワイナリーが1キログラム当たり0.30ユーロ未満を提示したとの訴えを受け、カタルーニャ州当局が食品サプライチェーン法の適用を強化

2026年11月22日（日）



ARAが11月21日土曜日に報じたところによると、カタルーニャ州政府はワイン業界への監視を拡大し、ブドウの買い取り価格が生産コストを下回る可能性のある契約100件超を調査している。

調査対象となっているのは、農産物の買い手が生産コストを下回る価格で購入することを禁じるスペインの食品サプライチェーン法16/2021への違反の可能性だ。ARAによると、カタルーニャ州農業・畜産・漁業・食料省は、同紙が約50件の契約をすでに審査中と報じた10月以降、取り組みを強化している。今回明らかになった件数は、当局が調査範囲を広げるなかで調査案件が2倍を超えたこと

を示している。

報道によると、この増加の大半は同省が独自に開始した検査によるものだ。一部の案件は農家や農業団体、業界関係者からの申し立てを受けたものだが、新たな調査の多くは、カタルーニャ州の農業・食品サプライチェーンにおける商取引を監督する部門、CadeCATの技術職員が直接着手したとARAは伝えている。取り締まりの強化は、ブドウ生産者とワイナリーにとって非常に緊張の高い局面だと業界関係者が同紙に語った状況を反映している。

すべての案件は、まだ初期段階にある。ARAによると、当局は現在、正式な制裁手続きに移行すべき案件があるか判断するため、関係者から書類を収集し、内容を確認している。正式な案件として立件されても、直ちに罰則が科されるわけではないが、契約が法律に違反したと当局が判断すれば、罰金に至る可能性のある手続きが始まる。

ARAが伝えた法的枠組みによると、違反が軽微な場合の罰金は250～3,000ユーロ、重大な場合は3,000～100,000ユーロ、極めて重大な場合は100,000～100万ユーロとなる。制裁には異議申し立てや不服申し立てが可能だ。処分を受けた生産者や買い手の名称が公表されるのは、裁判手続きがすべて終結した後に限られるという。

ARAが引用した同省関係者は、案件の審査が数日以内に進展し、12月下旬までには大きく進むと見込んでいる。それでも、調査対象者が正式な認定に異議を申し立てる可能性が高いため、手続きは2027年まで続く見通しだ。

取り締まり強化の背景には、ブドウ価格が業界の主要な争点の一つとなった収穫期がある。8月には農業団体7組織が、一部のワイン生産者が生産コストを「大幅に下回る」価格でブドウを買い取ると提示したと訴えた。ARAによると、これらの団体は、一部ワイナリーが1キログラム当たり0.30ユーロ未満を提示したと述べた。これは、カタルーニャ州ブドウ・ワイン研究所（Incavi）が今年公表した参考生産コスト、1キログラム当たり0.53～0.56ユーロを大きく下回る。

ただし、ARAは、Incaviの数値はあくまで基準値であり、それだけで契約が違法かどうかが決まるわけではないと指摘した。CadeCATの技術職員は契約ごとに個別に評価しており、鍵となるのは、合意価格が当該契約の対象となるブドウの実際の生産コストを下回っていたかどうかだ。

調査の拡大は、生産者と買い手の当面の対立を超えた意味を持つ。ワインのサプライチェーン全体で契約監視が強まり、ブドウを購入するワイナリーやその他の事業者が制裁を受けるリスクが高まる可能性があるためだ。飲料業界にとっては、原材料の価格設定や記録の管理がより厳しく審査され、調達慣行や生産者と買い手の交渉に影響が及ぶ可能性がある。

契約の審査が進む一方で、カタルーニャ州のワイン生産には、干ばつと収量低下に見舞われた数年間を経て回復の兆しが見られる。農業・食料、農村・環境観測所が11月初旬に公表したデータによると、今年の収穫で同州のブドウ生産量は356,506トンとなり、2025年の収穫期から3.9%増加した。Incaviは、この数値が極めて低い水準からの回復を示す一方、春の降雨不足と夏の高温により、当初予想されていた増加幅は縮小したと述べた。

気象条件は、収穫量と収穫時期の双方に影響した。ARAが引用した数値によると、夏の暑さはシャルドネやマカベオなど早熟品種に特に大きな影響を与えた一方、8月末の雨はxarel・loやparelladaなど晩熟品種を後押しした。また、温暖な気候で成熟が早まったため、州全域で収穫

時期が前倒しとなった。